

Practice Makes Perfect!

君は絶対英語ができるようになる!

another と the other、それに others と the others ってどう違うの？ 入試頻出のこれらの代名詞は、不定冠詞 a[an] と定冠詞 the の違いがわかればとたんに理解しやすくなる。ただ丸暗記するのではなく、どうしてそうなるかを理解し、理解した後でするのは…そう、音読!

東進英語科講師・安河内 哲也先生による紙上講義!

英語でとてもわかりにくいのが冠詞。a[an] と the だね。日本語にはない品詞だから、イメージをつかむのが難しいんだ。ただ単に、a は「1つの」、the は「その」と覚えているだけでは、十分に理解したとは言えない。でも、この区別がしっかりできれば、試験にもよく出てくる another と the other、others と the others の違いがとてもわかりやすくなる。

まず、a と the の違いを簡単に説明しよう。a[an] は、他にもたくさんある中からどれかひとつを指すときに用いられる。

まずは小手調べに次の問題をやってみよう。

If you go shopping, please buy bottle of mineral water. Any kind will do.

- ① a ② some ③ that ④ the

(京都産業大学)

最後の do は「間に合う、用が足りる」の意味だから、Any kind will do. は「どんな種類のものでいいです」ということ。つまり、「どんなものでもいいからミネラルウォーターを1本買ってきて」ということだね。だから、正解は①。問題文の訳は、「もし買い物に行くなら、ミネラルウォーターを1本買ってきてください。どんな種類のものでいいです」となる。

これに対して、the は 話し手と聞き手がお互いにどれを指しているかわかっているものにつけられるんだ。例えば、日常会話でよく使われる Pass me the salt, please. という文を考えてみよう。これは「塩を取ってください」という意味だけど、この文が使われている状況では、テーブルの上には塩が1つしかなくて、話している人はもちろん、頼まれている人も、どの「塩」が話題になっているかわかっているんだね。だから the salt になる。Please open the window. などと同じ理屈だ。

ところで、the は後ろに複数形の名詞が来ても同じように使われるけど、もちろん a[an] は後ろに単数形の名詞がくるときにしか使われない。では、「他にもたくさんある中の複数のもの」を表すときはどうすればよい？ そう、前に何もつけなくていいんだ。これをまとめるとこうなる。

- a + 名詞 → 他にもある中のどれかひとつ
the + 名詞 → お互いどれだかわかるひとつ
名詞s → 他にもある中の複数のもの
the + 名詞s → お互いどれだかわかる複数のもの

東進英語科講師・安河内 哲也先生

「基礎から偏差値アップ」「有名大突破!」という超人気講座の名前どおり、数えきれないほどの受験生の偏差値を大改造、難関大へと送り込んでいる! わかりやすく合理的な教え方と将来も役に立つ本質的な語学学習へのこだわりで、受験生の信頼は厚い。著書は80冊以上、ベストセラー多数、発行部数のべ300万部突破、中・韓でも出版。TOEIC試験4技能(LRSW合計)1390点満点。通訳案内士。大手企業研修講師も歴任。授業は「英語が楽しくなる」と全レベルの受験生に大評判。

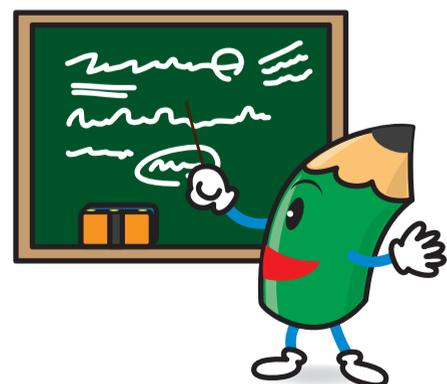


これを理解していれば、試験でもよく出てくる重要事項、another、the other、others、the others の違いもよくわかる。another は、an other がつながって1語になった語だ。another や other は、後ろに名詞がつながって、「別の」「他の」という形容詞としても使われる。この点を加味して、さっきの表の「名詞」を other に変えれば、こんな具合になる。

- another / another + 名詞 → まだ残りがある中のどれかひとつ
the other / the other + 名詞 → 最後のひとつ
others / other + 名詞s → まだ残りがある中の複数のもの
the others / the other + 名詞s → 最後に残った複数のもの

これで、another、the other、others、the others の区別がしっかりできるはずだ。

では、裏面のチャレンジ問題演習で確認しよう。



裏面へ続く! ➡

